

## 課題NO.3

# 農村の維持発展を支える法人経営の体質強化

活動期間：令和3年度～令和5年度

対象者：農事組合法人あきう生産組合(役員8人)

チーム員：安達裕美，小野寺和博，菊地敬子，佐藤楓

# 1 課題の背景・ねらい

## (1)背景

- 設立：平成28年にJA出資型法人として設立(前身：秋保転作組合)
- 経営規模：水稲12ha，大豆50ha，そば25ha
- 排水不良地や土壌タイプの異なるほ場が多く，作物の収量は総じて低い。
- 構成員が高齢化しており，労働力確保方法について検討を重ねている。



## (2)ねらい

- 定性的目標：水稲，大豆，そばの収量・品質が向上する。  
新規園芸品目の導入及び規模拡大が図られる。  
雇用のための受入体制の基礎が整備される。
- 数値目標：農産物売上高増加率 (R1:基準年 0)

R3:3%増 → R4:5%増 → R5:8%増  
(R3実績9.4%増)

環境保全米  
「清流育ち秋保米」



## 2 活動内容

### (1) 水稲, 大豆, そばの安定生産技術支援



#### 【水稲】

作業適期把握のため、水稲生育調査ほ場を設置



#### 【大豆】

R3調査結果をもとに施肥設計を改良した大豆生育調査ほ場の設置



#### 【そば】

生育状況の確認<sup>3</sup>

## 2 活動内容

### (2)新規園芸品目の導入及び栽培技術支援



#### 【そらまめ】

- R3.11月中旬に定植(2作目)
- R4.6月上旬より出荷
- 定植, 越冬管理, 防除指導
- R4.11月下旬に定植(3作目)

#### 【ブロッコリー】

- R4.9月上旬に定植
- 11月下旬出荷
- 組合として取組開始

#### 【いちじく】

- R4.4月上旬定植
- 植栽, 病害虫防除指導

## 2 活動内容

### (3) 労務管理基盤の整備支援



雇用を活用している法人視察



雇用を視野に入れて  
経営決算分析の検討



施設導入に向けて打合せ（1）



施設導入に向けて打合せ（2）

# 3 活動成果

## (1) 水稲・大豆・そばの安定生産技術支援

	R1		R3		R4	
	反収	等級	反収	等級	反収	等級
水稲	405kg/10a	1等	392kg/10a	1等	463kg/10a	1等
大豆	89kg/10a	2～3等	102kg/10a	2～3等	89kg/10a	2等
そば	20kg/10a	1等	54kg/10a	1等	53kg/10a	1等

- 経営決算分析により大豆とそばの収量・品質の向上が経営の重要な位置を占めることを再認識。
- 水稲・そばは基準年のR1と比較して反収増
- 大豆は、播種期の長雨で全体収量は伸びなかったものの、低コスト肥料利用の有効性を確認

# 3 活動成果

## (2)新規園芸品目の導入及び定着のための栽培技術支援

	R3		R4	
	面積	販売量	面積	販売量
そらまめ	15 a	492Kg	15a	624kg
ブロッコリー	(2.5a)	-	15a	500kg
いちじく	-	-	18a	-

※R3のブロッコリーは  
構成員(7名)が個人として試作

## (3)労務管理基盤の整備支援

- 雇用している法人視察 → 労働力確保の方法は雇用より構成員の増
- 乾燥調製施設導入検討 → 労働力確保の必要性増

## 数値目標 (R4年度実績取りまとめ中。2月末ごろ確定)

農産物売上高増加率 R3:3%増 → R4:5%増 → R5:8%増  
(実績9.4%増)

# 4 令和5年度の活動

## (1) 水稲，大豆，そばの安定生産技術支援

- 土壌分析や生育状況に応じた栽培管理指導
- 大豆の排水対策や碎土技術等の改善指導

## (2) 新規園芸品目の定着のための栽培技術支援

- そらまめ・ブロッコリー等の栽培管理指導
- いちじくの栽培管理指導

## (3) 労務管理基盤の整備支援

- 労働力確保に向けた体制づくり支援
- 乾燥調製施設導入に向けた経営支援

定性的目標

水稲，大豆，そばの生産技術が向上し，安定した経営が行われる。

新規園芸品目が定着し，農地及び労働力が効率的に活用される。

労務管理基盤が整備され，人材確保に向けた積極的な活動が行われる。

数値目標

農産物売上高増加率 8%増  
(基準年：令和元年)